

岐阜県経済の現状



平成25年3月分
岐阜県商工労働部

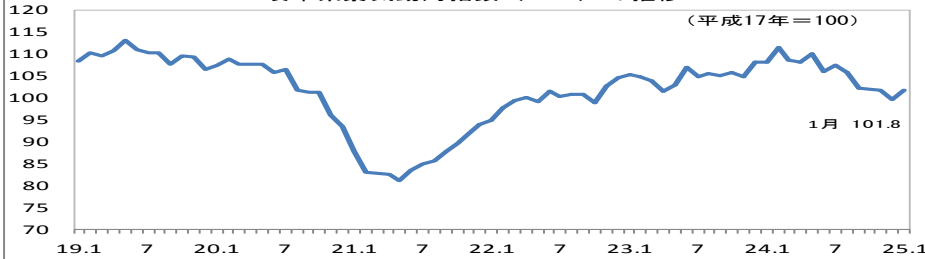
※企業等へのヒアリングは3月28日～29日を中心に実施し、4月10日に作成。

景気動向・製造業

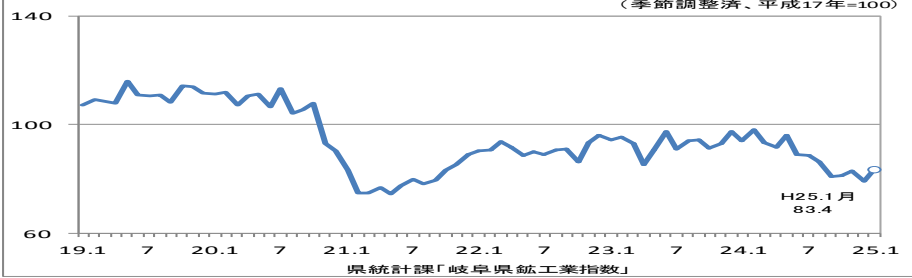
○1月の景気動向指数(CI、一致指数)は101.8と前月から2.2ポイント上昇。県内中小企業の景況感は、4ポイントの悪化。

○1月の鉱工業生産指数は、5.4%増の83.4となった。製造業及び非製造業の売り上げは横ばい傾向。

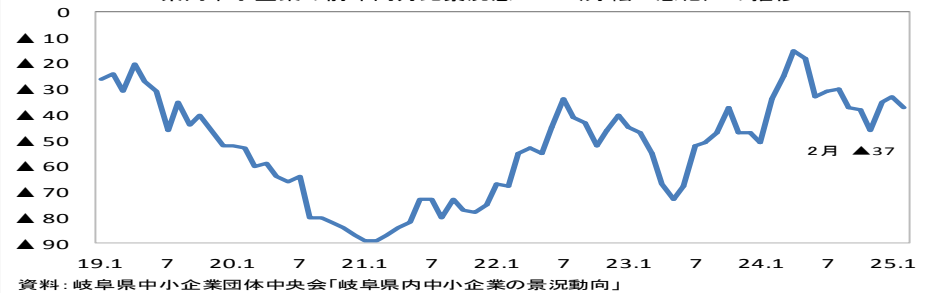
岐阜県景気動向指数(CI)の推移



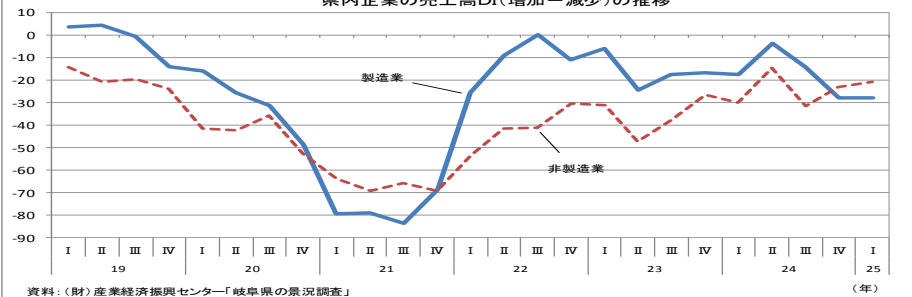
鉱工業生産指数の推移



県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



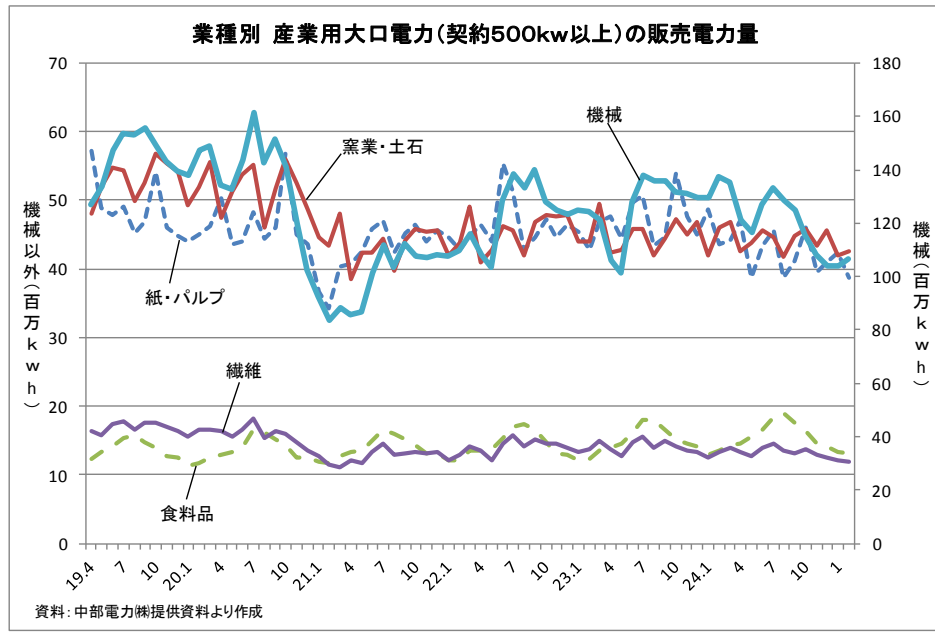
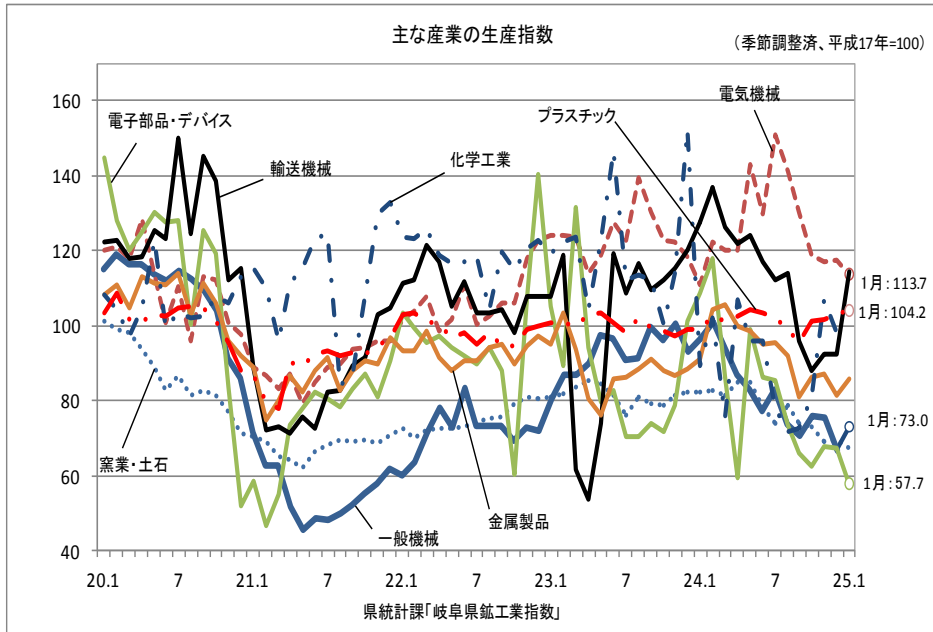
現場の動き

- ◆円安による為替差益が出ており、賞与が満額回答となった一方、国内の売上げは上がっていない。
- ◆工場生産能力は90%程度になった。残業も発生しており忙しくなっている。円安の影響により海外で車が売れていることが要因になっていると思われる。今後も短期的には好調を見込んでいる。
- ◆中国への売上げはゆっくりとではあるが回復しつつある。北米向けは変わらず好調である。
- ◆3月の売上高は前月比105~110%。円安が追い風になり生産量も増えている。
- ◆出荷量は対前月では2.6%増加した。トヨタ全体の生産量が伸びており、出荷量増になっている。(以上、自動車用部品)
- ◆中国現地法人では100%を超えフル操業となったため、仕事を少し国内に移した。(非鉄金属)
- ◆売上げはピーク時の80~90%程度に上昇。前年同月比で120%程度となるなど、売上げが上がってきた。(生産用機械)
- ◆春夏製品である冷麺関連製品は受注・販売ともに増加傾向。
- ◆2月までの売上げは前年並みとした予算を5億円上回っている。3月の売上げも計画を上回る見通しであり、引き続き業績を伸ばしていきたい。(以上、プラスチック)
- ◆荷量としては例年と比べやや好調。太陽光発電関係の物流が結構良い。(運輸業)

製造業-2(業種別)

○1月の生産指数は、電子部品・デバイスで低下したものの、輸送機械、機械工業、一般機械等が上昇した。

○2月の工場向け販売電力量は、全ての産業で前年を下回っており、構成比の大きな機械がこのところ特に減少幅が大きくなっている。



現場の動き

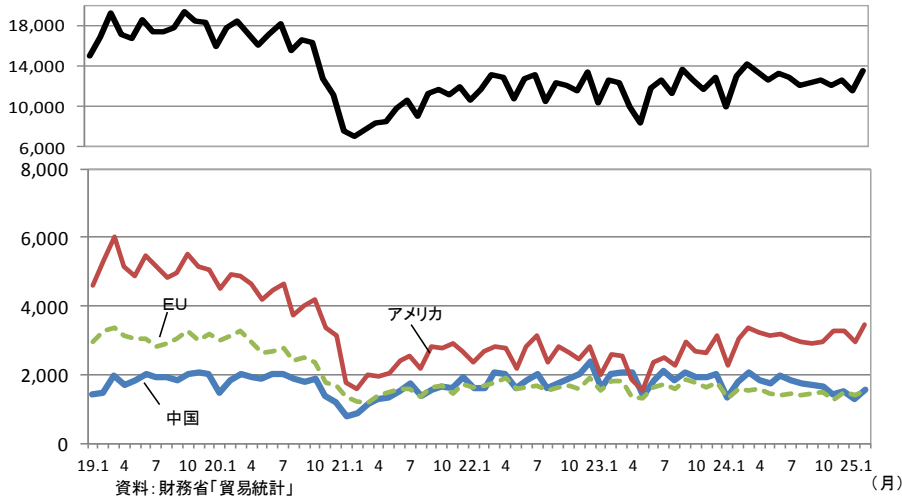
- ◆3月の景況は最悪とっていい。対前年比でもかなり悪い。春物のオーダーが入ってこない。冬物の在庫はおおむねさばけたが、そもそもセール品で売っているため利益はない。(アパレル)
- ◆冬物は昨年並みの売上げであり、なんとか現状を維持できた。今後はギフト商品などが動いてくる季節だが、GW明けからのブライダルギフト商戦まではあまり期待できない。(陶磁器)
- ◆特別この商品が伸びているということではなく、全体的に調子が良い。(紙関係)
- ◆1~3月にかけて好調だった。都市部の戸建てやマンションが売れていることが原因と分析している。(木工)
- ◆景況は相変わらず悪い状態が続いている。ただし、年明けからの円安により、顧客からの問い合わせ等で良い兆しは感じている。(刃物)
- ◆景況は非常に悪い。消費者にお金がなく、余分な物にお金を使わないからだと分析している。(食品)

輸出

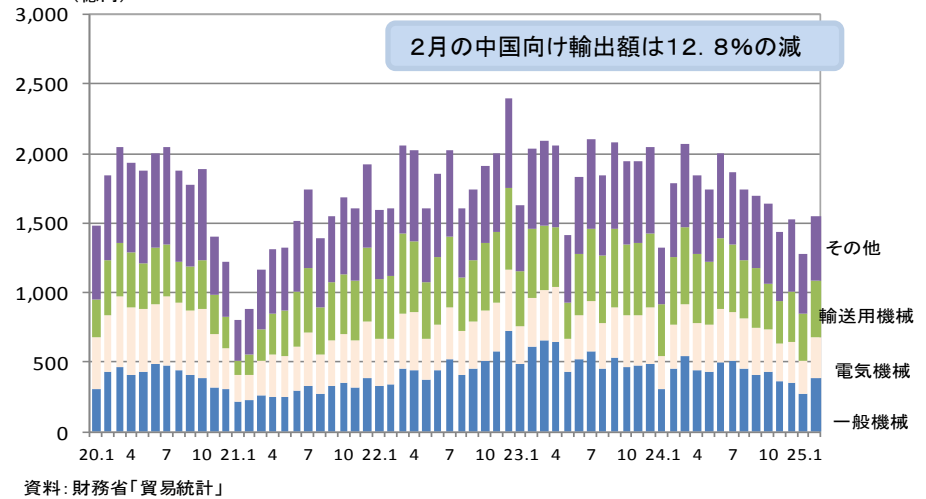
○2月の輸出額(名古屋税関管内)は、13,464億円で前年同月比4%増。

○中国向け輸出は主力の産業が全て減少したことで前年同月比12.8%減となった。逆に、アメリカ向け輸出は主力産業が全て増加したことで13.1%増となり、直近17カ月中16カ月で前年を上回っている。

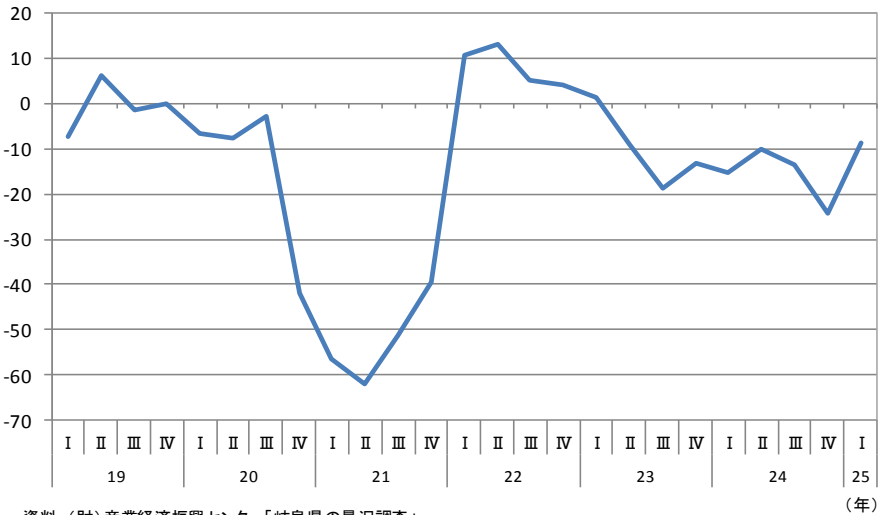
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(全産業)



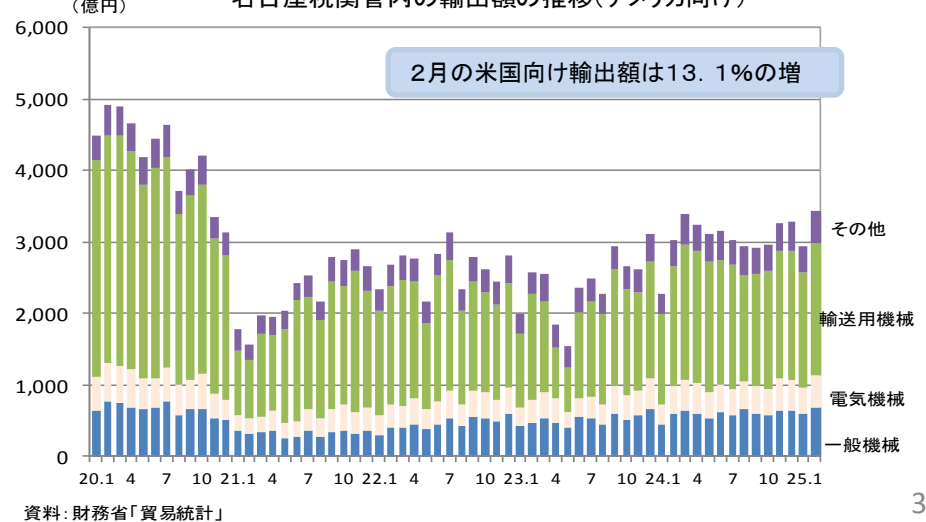
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(中国向け)



県内企業の輸出向け売上高DI(増加-減少)の推移



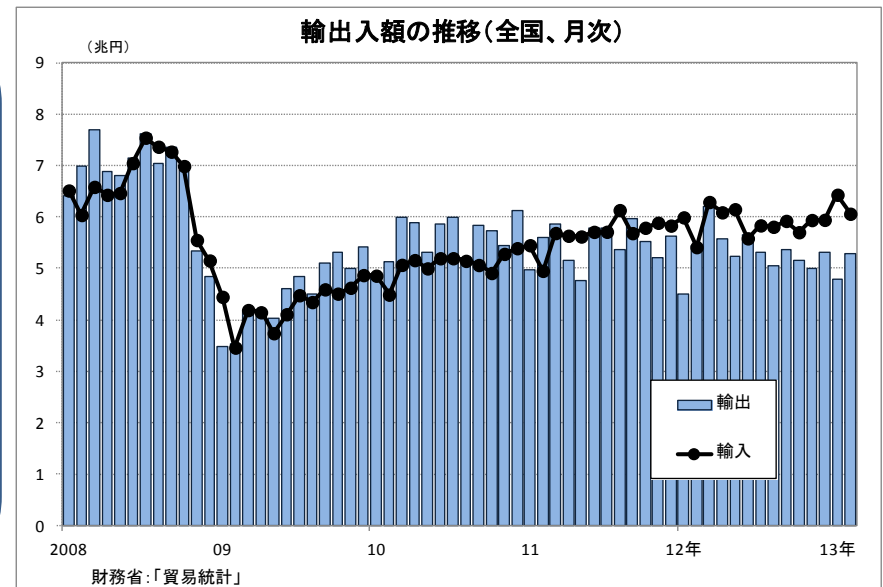
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(アメリカ向け)



海外情勢の影響(直近の円安の動きについて)

- ◆円安の影響は、燃料の価格契約をしていない小規模の運送業では早速影響が出ている。今後、燃料、輸入材の価格上昇を価格転嫁できないところがあるので心配。(金融機関)
- ◆原料の3割程度を輸入している。円安が進むことにより徐々に輸入原料のコストが上昇しているため、円安はマイナス要因である。(食料品製造)
- ◆原油価格の高騰が製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が難しく利益を圧迫している。(食料品製造)
- ◆2月の売上げ対前年比は全体で7.5%増となった。大型建機の海外輸出が伸びたことが影響している。
- ◆中国に工場を持つ外国メーカー向けの輸出や、タイ向けのアコン部品の輸出が回復してきている。6割を輸出が占めているので円安はありがたい。
- ◆中国情勢等の影響が少なくなり、中国工場への直接出荷分は通常の出荷量にもどったところ。(以上、輸送用機械)
- ◆原料価格は、4月から価格が上昇する見込み。(電気機械)

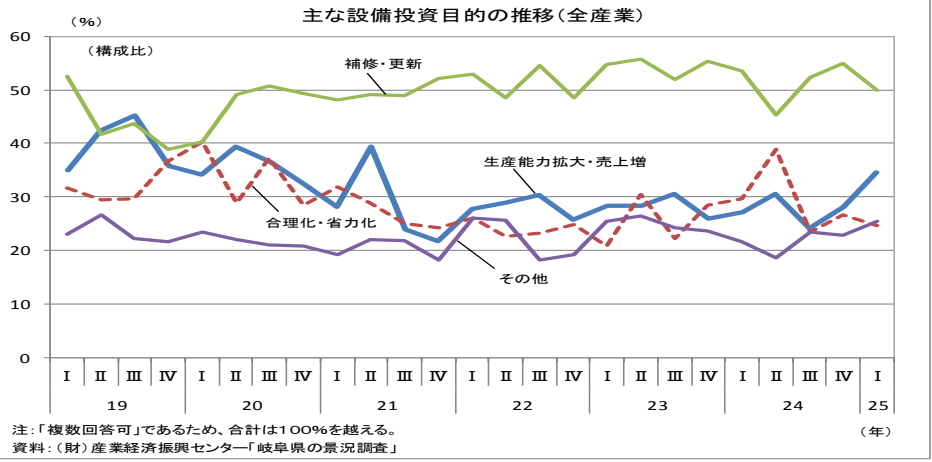
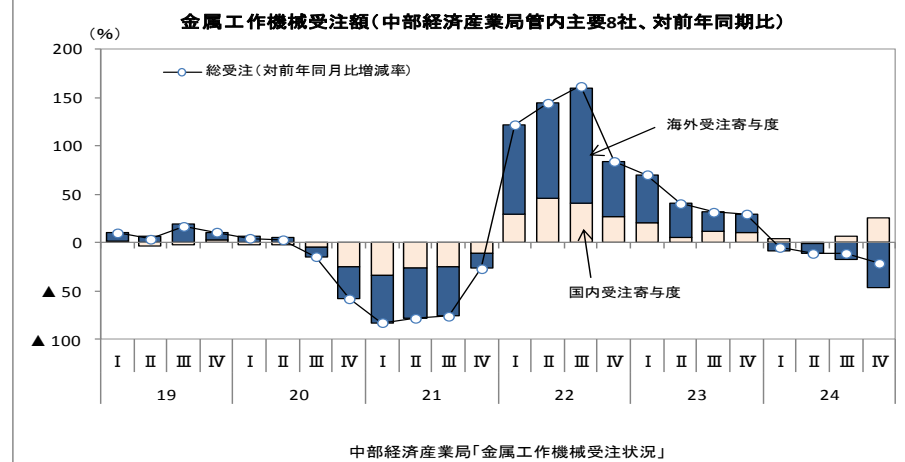
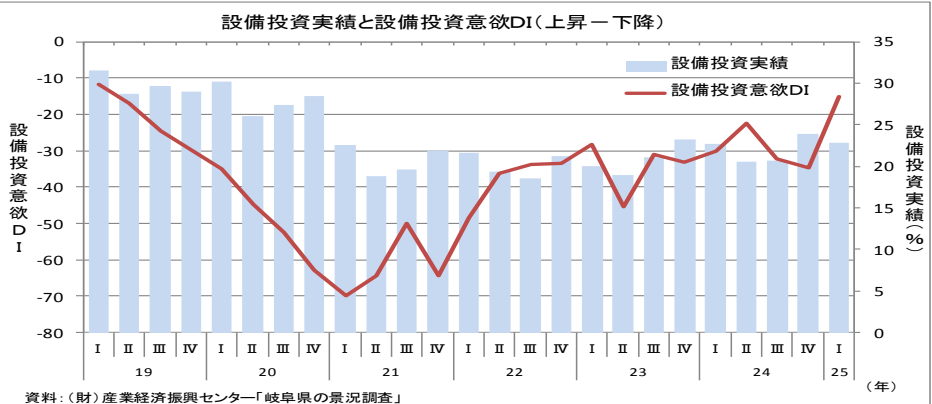
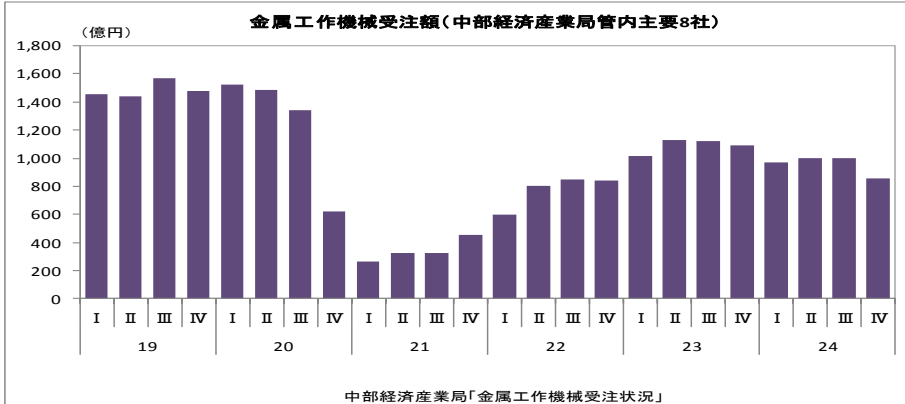
- ◆原材料である鉄は円安による値上げが予測されるが、まだ動きは小さい。ただし燃料費の高騰は影響を受けている。
- ◆円安による輸入材料の値上がりが製造原価の上昇を招き、販売価格の値上げが必要になってくる。(以上、生産用機械)
- ◆原油価格が高値圏で推移している現状から材料価格が12%程度上昇している。製品価格への転嫁はタイムラグがあり当面収益圧迫傾向にある。
- ◆円安の影響により、4月から原材料費が値上げになる予定である。(以上、プラスチック)



設備投資

- 生産用機械の受注額は、海外受注が減少したことで、4期連続のマイナスとなった。
- 設備投資意欲DIは、改善傾向。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加した。



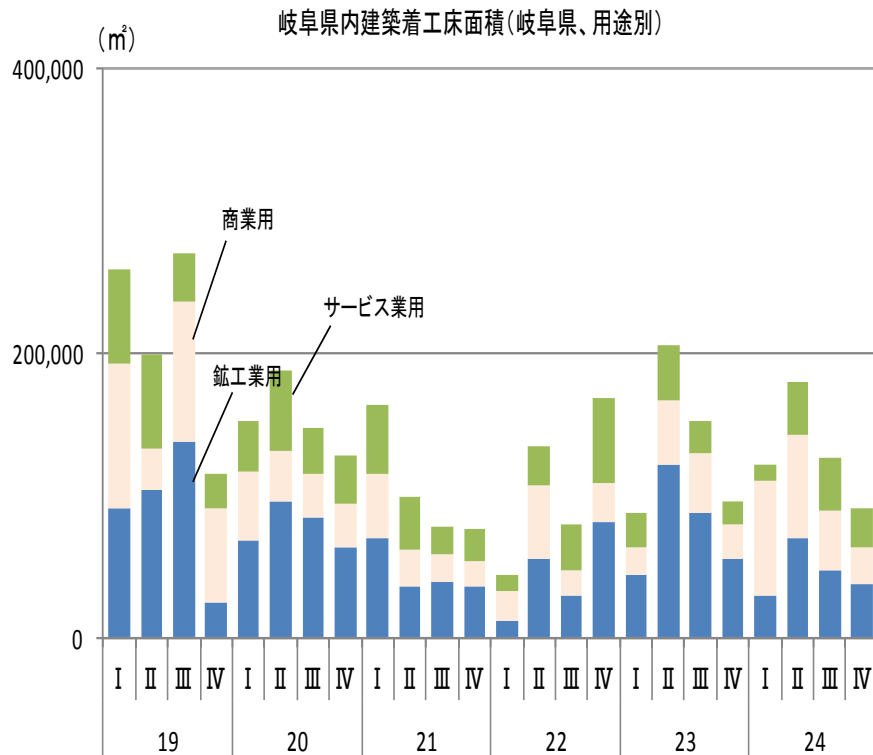
現場の動き

- ◆円安による輸出増加が直接影響する業種ではないが、各社の投資が積極的になり始めたのかもしれない。
- ◆海外からの大型印刷ラインの受注があり受注額が増加した。国内の印刷機の商談・引き合いも活発化してきた。(以上、生産用機械)
- ◆受注は多少増加傾向にあり、見積もりが少しずつ受注に繋がりはじめた。(はん用機械)

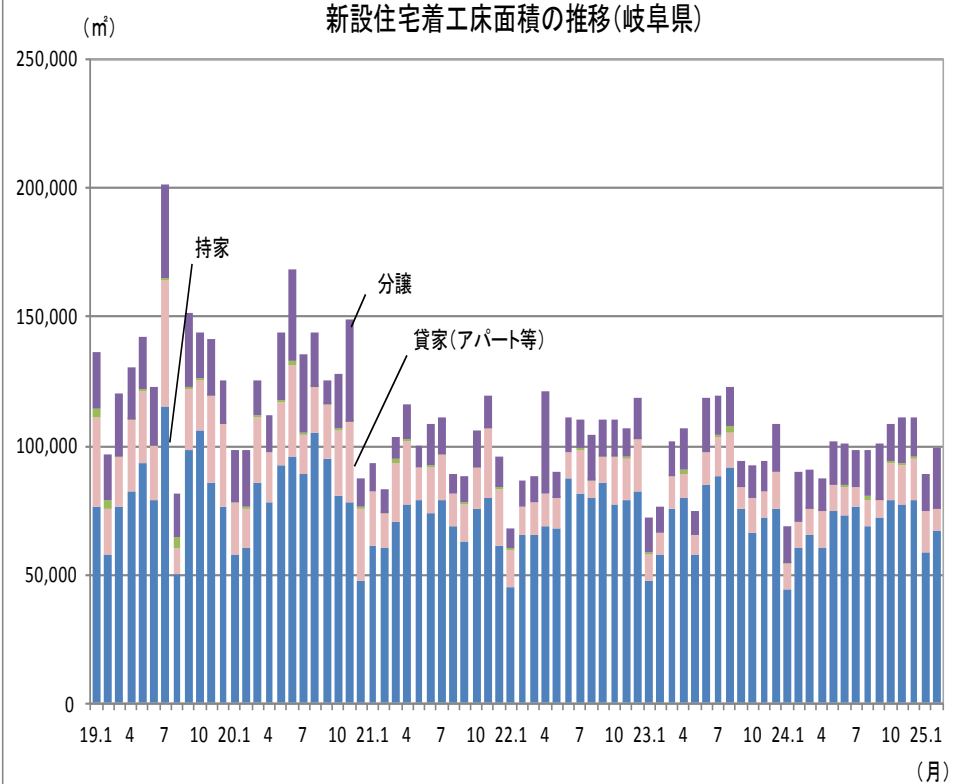
住宅・建築投資

○24年10－12月期の建築着工は、商業、サービス業用が増加したものの、鉱工業が減少し、前年同期比4.9%減となった。

○2月の住宅着工は、貸家が減少したものの、構成比の大きな持家が増加したことで、全体では前年同月比10.4%の増加となった。



資料: 県建築指導課「岐阜県建築着工統計」



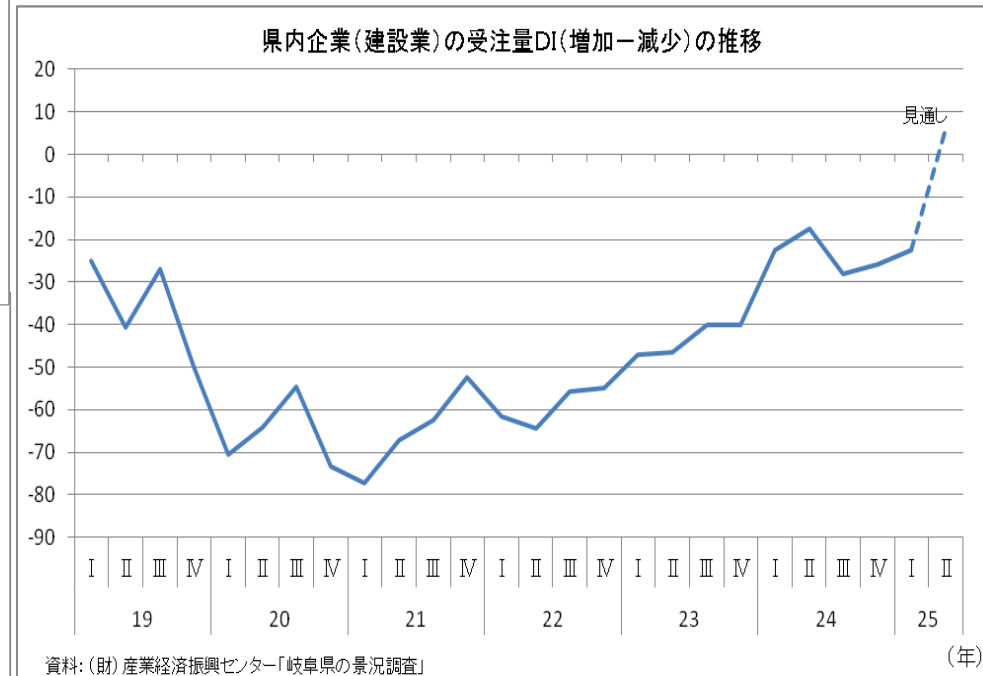
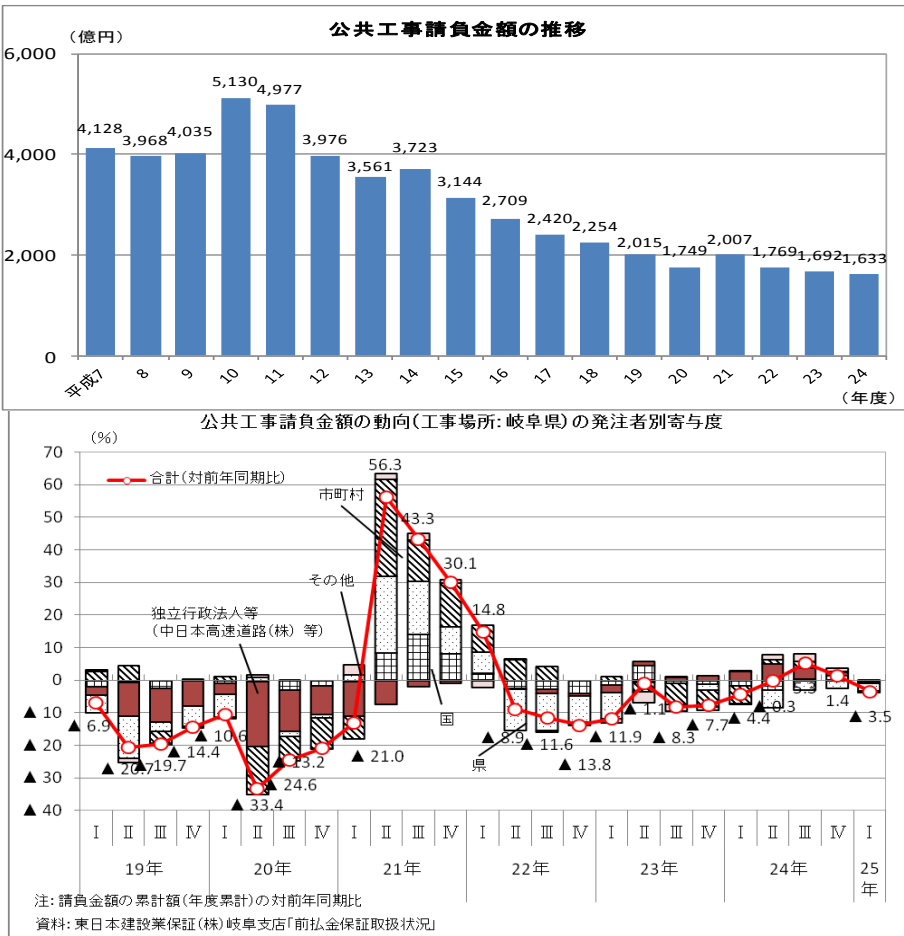
現場の動き

- ◆今後の円安の推移による外材からの国産材へのシフトと、消費税がアップされることでの需要増加を期待している。(木材市場会社)
- ◆円安のため外材が入りにくくなっているが、無垢材の需要は高まっていない。
- ◆プレカット業界では、消費税導入前に設備投資を考えているところが多いと聞いている。(以上、製材所)

公共工事

○24年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,633億円で過去最低を更新。

○25年1-3月期の公共工事請負金額は、国、市町村、独立行政法人からの発注が減少しているため、対前年同期比3.5%減と4期ぶりに前年同期の水準を下回った。

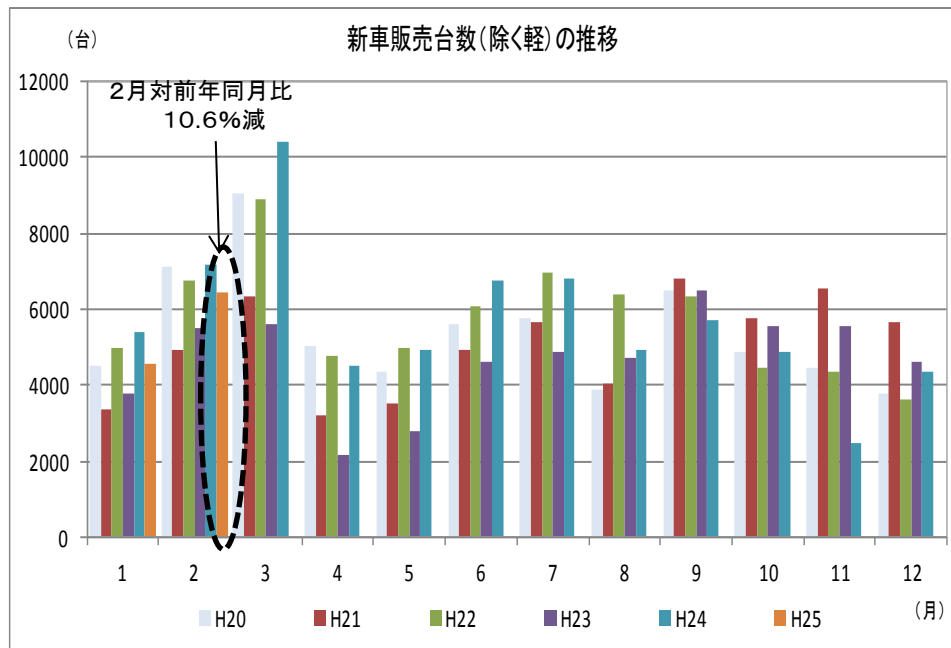
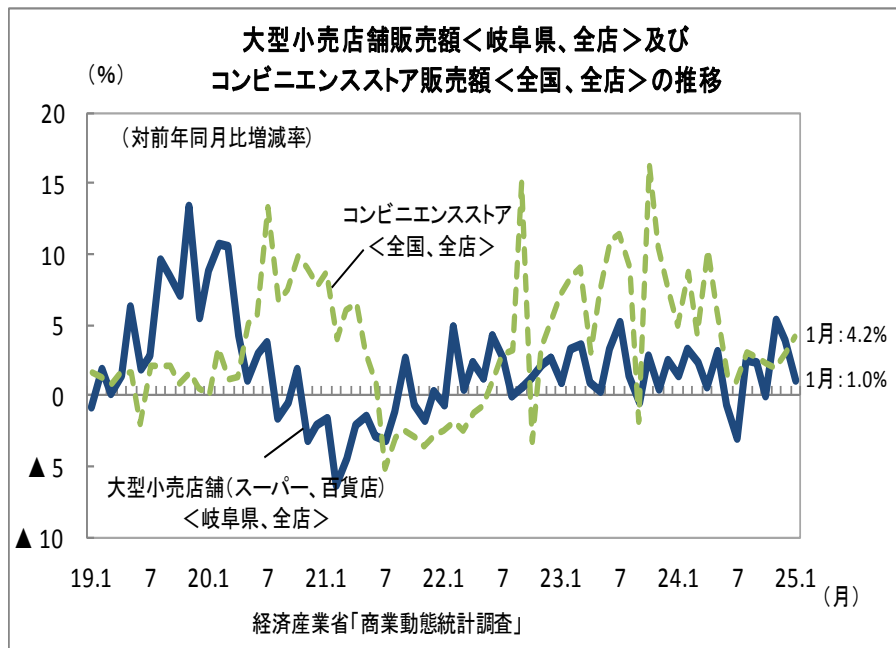


現場の動き

◆積雪の影響も少なく順調に工事も進捗し、建設業者の手持ちの仕事は減少傾向にある。一方、大型補正による公共工事が控えていることもあり、業界の雰囲気は明るい。(業界団体)

個人消費(流通・小売)

○1月の大型小売店販売額は、対前年同月比1.0%増と6カ月連続の増加となった。また、2月の自動車販売は前年同期比10.6%減と6カ月連続の減少となった。



現場の動き

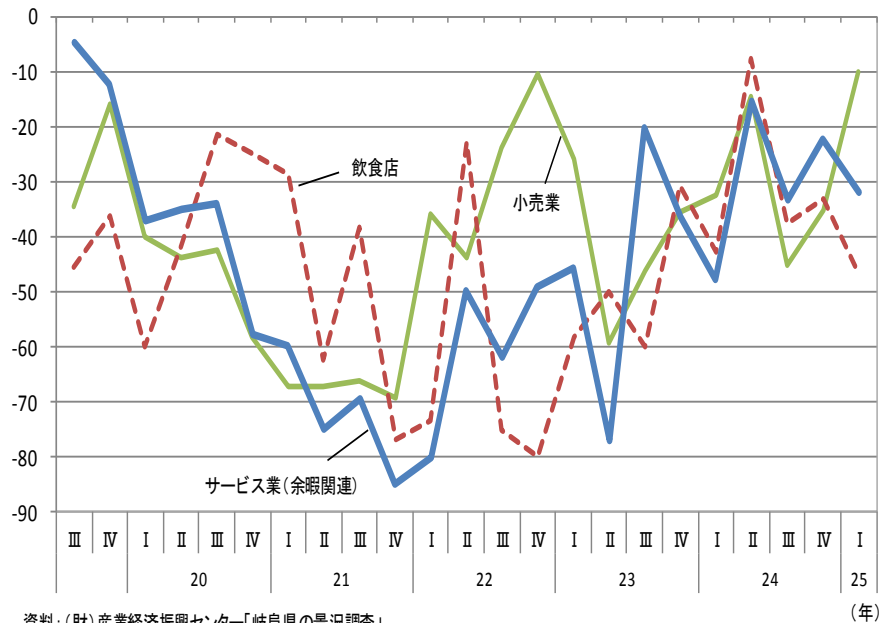
【大型店総括】【専門店総括】食料品は堅調に推移。特にイベント時の反応がよく、客単価も徐々に上昇の兆しあり。

- ◆来客数は全体で前年同月比101%。昨年よりやや良い程度。
- ◆来場客数は対前年同月比100%、売り上げは98%程度。来場客数に比例するはずの飲食店が苦戦。
- ◆直営店の売り上げがよく、特に今月も食料品が好調だった。
- ◆新生活関連品も順調で対前年同月比105%の伸び。衣料品も持ち直してきており、特に気温上昇に伴い春物の売れ行きが加速したことで103%程度となった。
- ◆来客数、売り上げともに対前年105%と良かった。衣料品については春物の売り上げが好調だった。(以上、大型小売店)
- ◆今月は全体的に好調だった。中でも、ゴルフやテニスなどの屋外スポーツ関連が好調で、前年を大幅に上回った。(スポーツ用品)
- ◆白物は冷蔵庫、洗濯機がややマイナス、一方でエアコンや空気清浄機が好調だった。(家電)

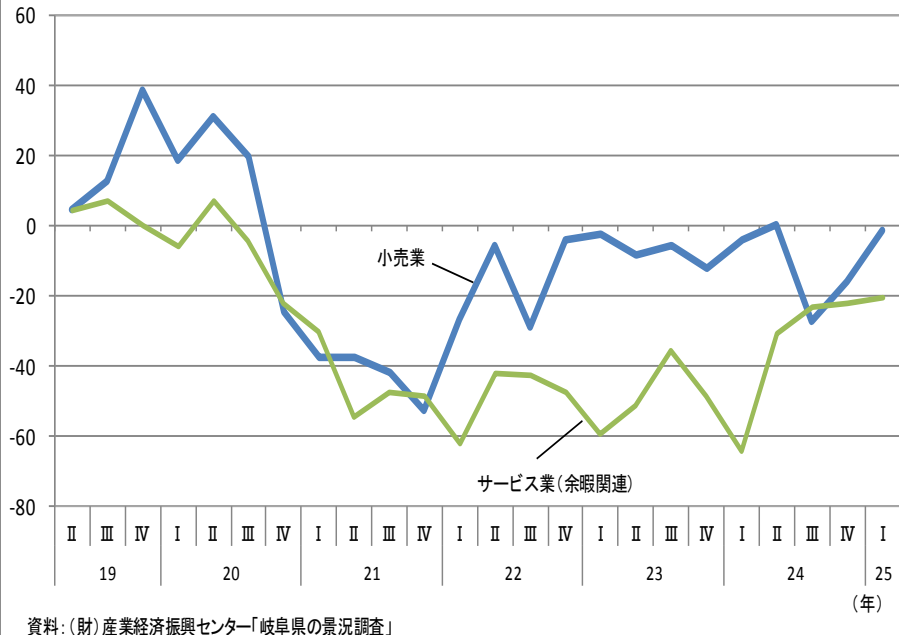
個人消費(流通・小売)－2

○平成25年第 I 四半期の小売業について、売上高、販売額ともに上昇傾向。

県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



現場の動き

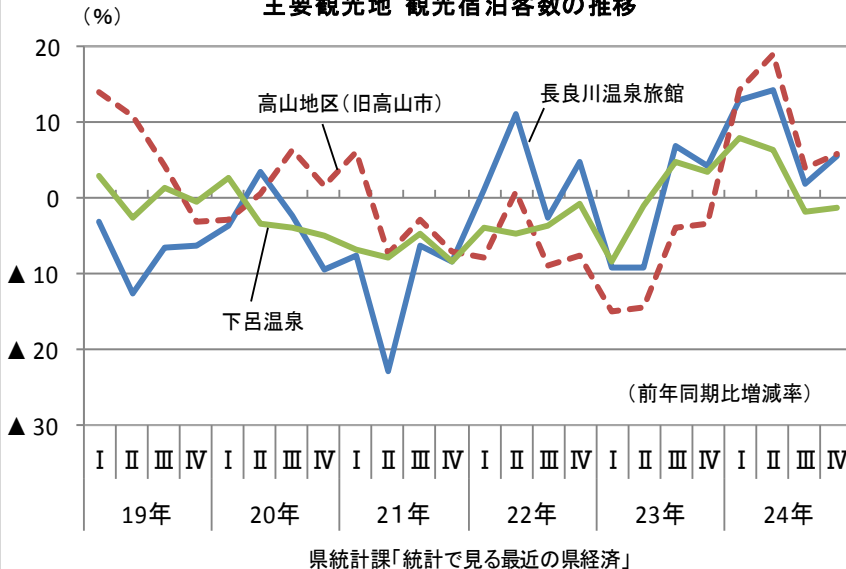
- ◆ 売上げは前年同月比で4割減。(大垣市ブティック)
- ◆ 前年同月比で2割増。2月がよくなかったが、その分を3月に購買したようだ。(大垣市スポーツショップ)
- ◆ 春休みに入った時期から、例年になく、親子連れや若い人が増えている。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 春休みに入った時期から、観光客が多くなってきた。(高山市商店街)
- ◆ 春休みに入り、学生の卒業旅行や若い人の観光客が多くなった。(高山市和菓子店)
- ◆ デフレを脱却しておらず、イベントを実施してもお客さんが来なかった。(アクティブG)

観光

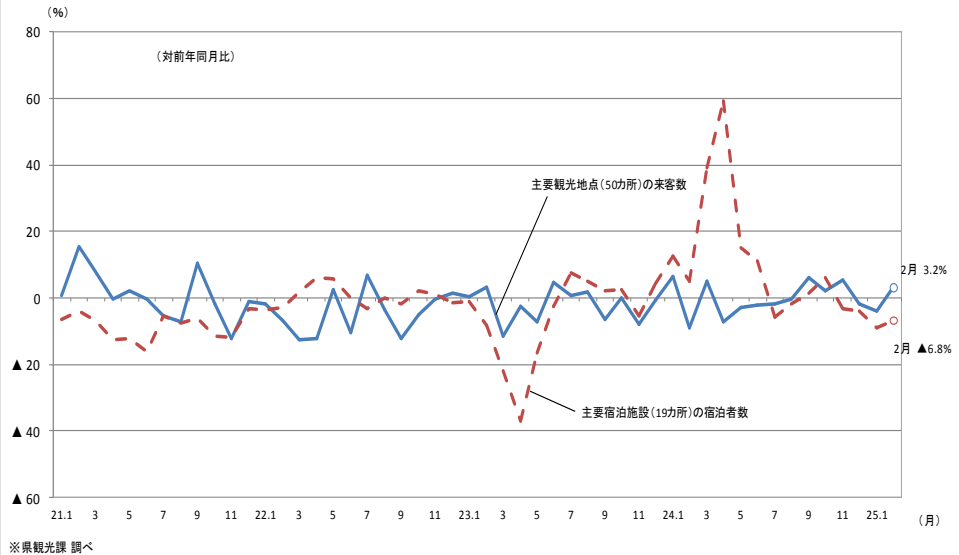
○平成24年第Ⅳ四半期の宿泊客数は、長良川温泉が前年同期比5.7%増、高山地区(旧高山市)が5.9%増と引き続き増加したものの、下呂温泉は1.2%と引き続き減少した。

○主要観光地における2月の観光客数は、前年同月比3.2%増と3ヶ月ぶりに前年を上回った。一方、主要宿泊施設における宿泊者数は、同6.8%減と4ヶ月連続で前年を下回った。

主要観光地 観光宿泊客数の推移



主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



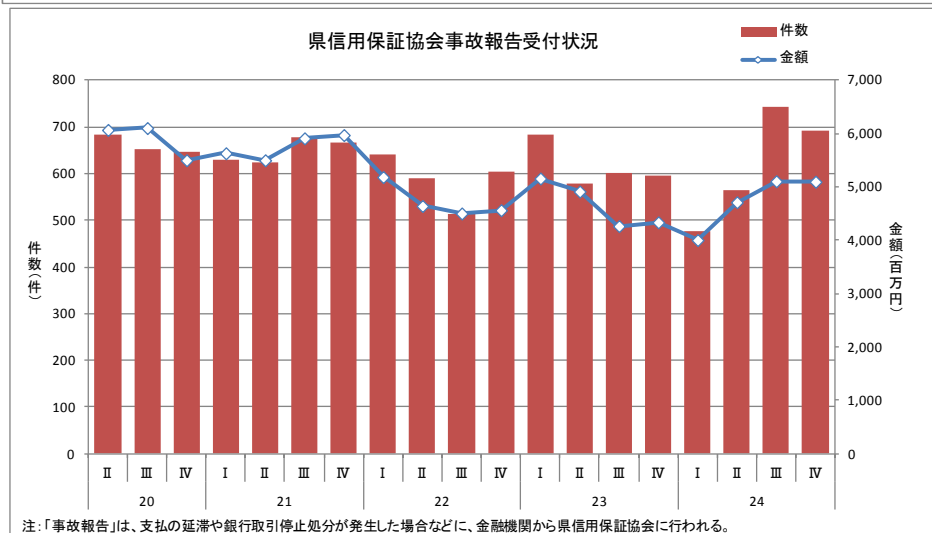
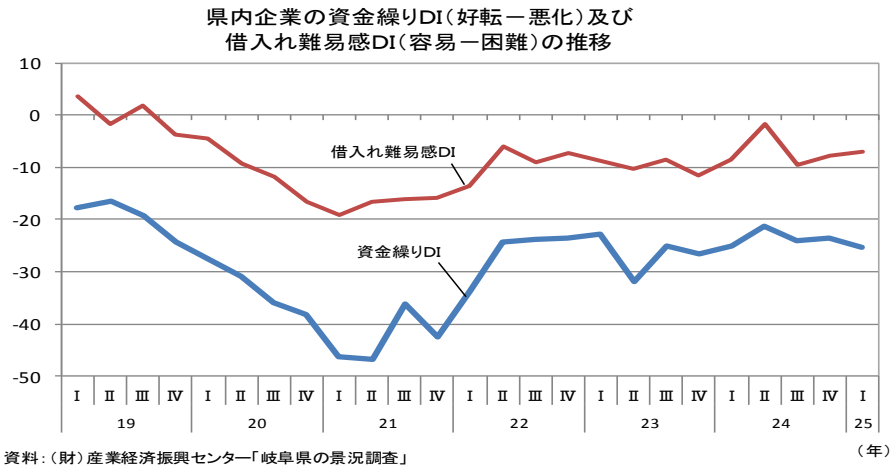
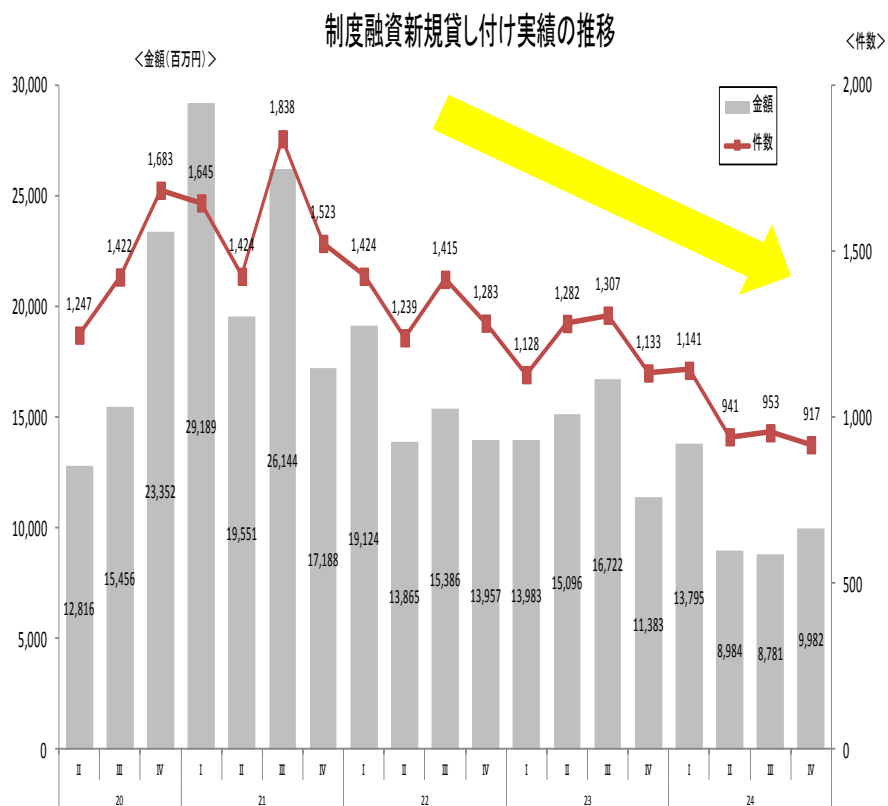
現場の動き

- ◆施設によってバラツキはあるものの、インターネット予約などを中心に総じて前年の水準を概ね確保している模様。インバウンドはアジアを中心に緩やかな回復の動きが続いており、4月以降の予約にも動きが見られる。(宿泊施設の総括)
- ◆3月は団体客が少ない一方インターネット予約(前年比2割増)など個人が伸びた。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆3月は学生団体や卒業旅行が好調で、インターネット等の直前予約も動きがある。
- ◆インターネット予約は間際予約が中心だが、前年同期に比べ宿泊単価が増加している。(以上、下呂市内の宿泊施設)
- ◆4、5月にかけて団体の動きが出ており、個人客もゴールデンウィークを中心に動きが見られる。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドは国別で差異があるが、震災前レベルの水準には戻ってきている模様。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆震災前の水準には回復していないが、高山全体として4月の先行受注に期待感がある。(高山市内の宿泊施設)
- ◆台湾が完全に震災前の状況に戻っているほか、韓国が復調傾向。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いている。
- 足元の資金繰り及び借入難易度は回復基調が一服している。

<新規融資実績(月別)>



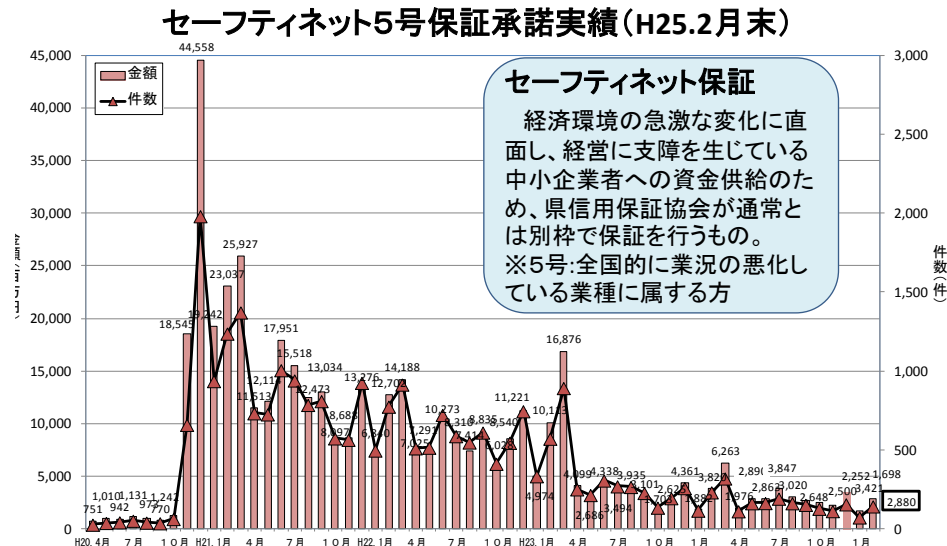
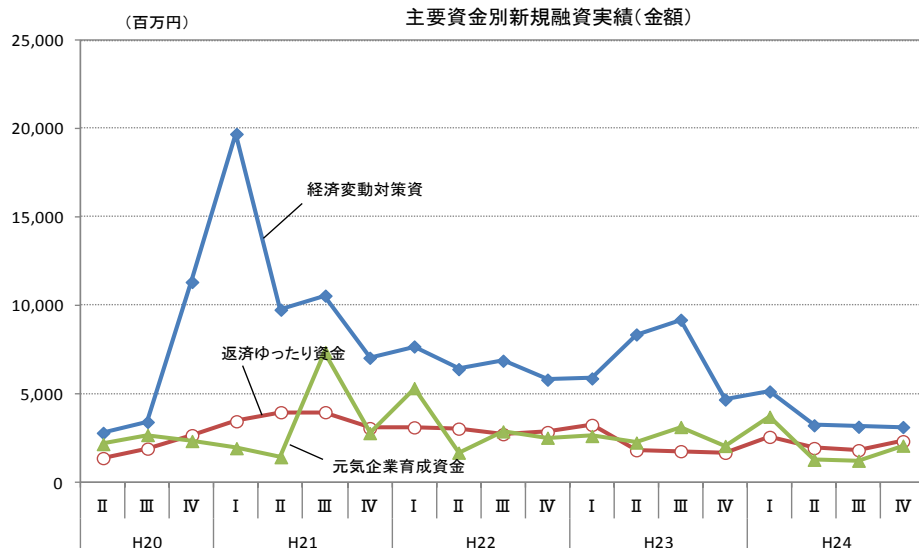
現場の動き

- ◆年度末で融資の取り組みを強化しているが、状況はまったく変わっていない。
- ◆条件変更にはこれまでどおり対応している。申込件数にも変化がなく、金融円滑化法期限を前にした駆け込みもない。
- ◆経営支援については、これまで以上に関与を深めていくつもり。(以上、金融機関)

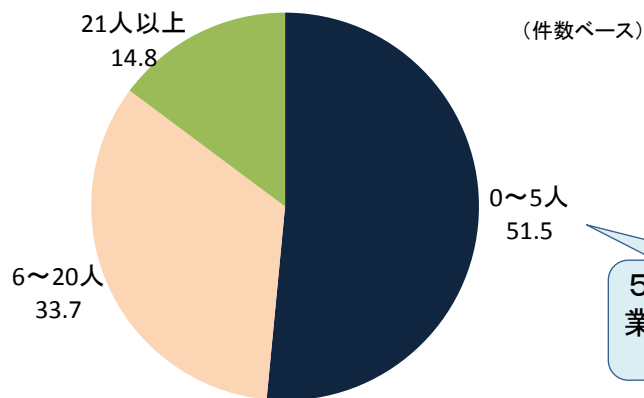
資金繰り-2

○資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。

○引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。

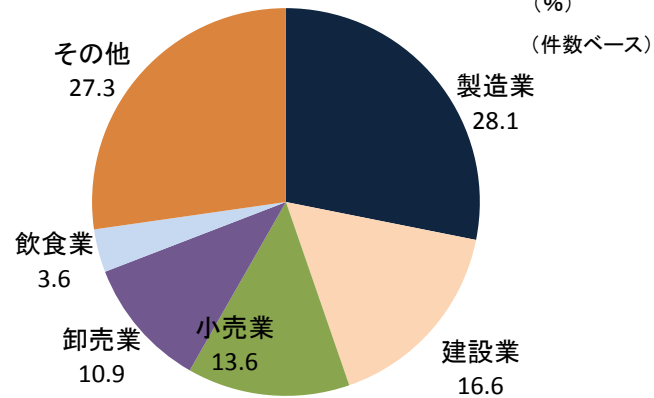


県制度融資 利用企業規模別割合 (H23年4—H24年3月計)



5名以下の零細企業の利用が半分以上を占める

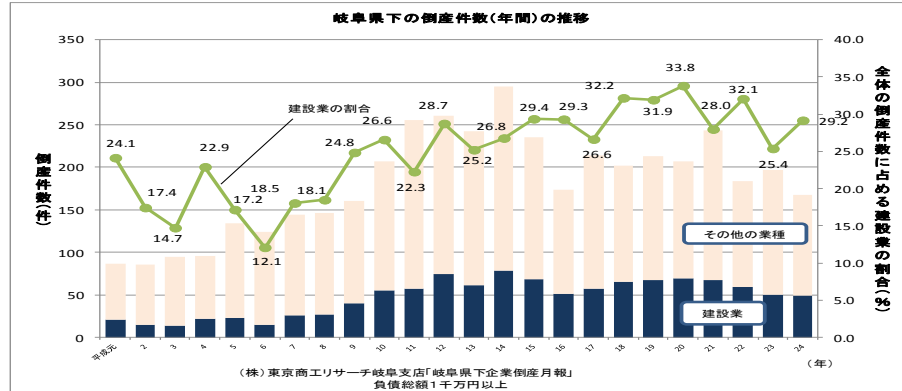
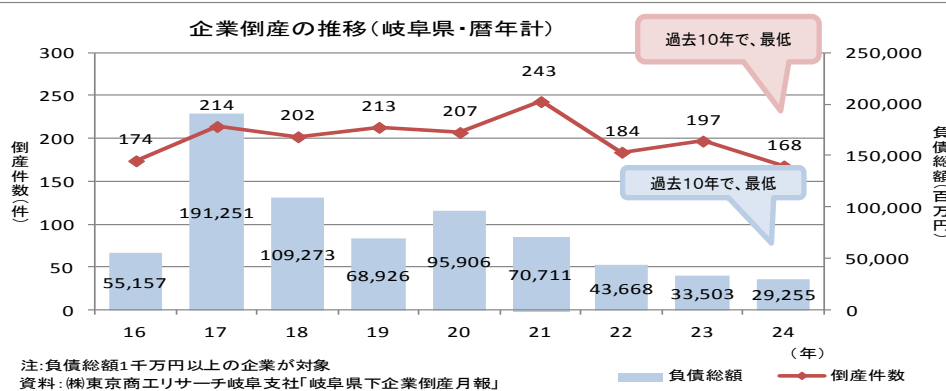
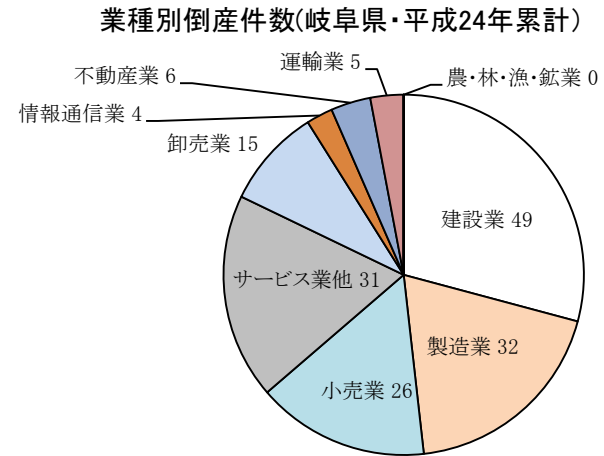
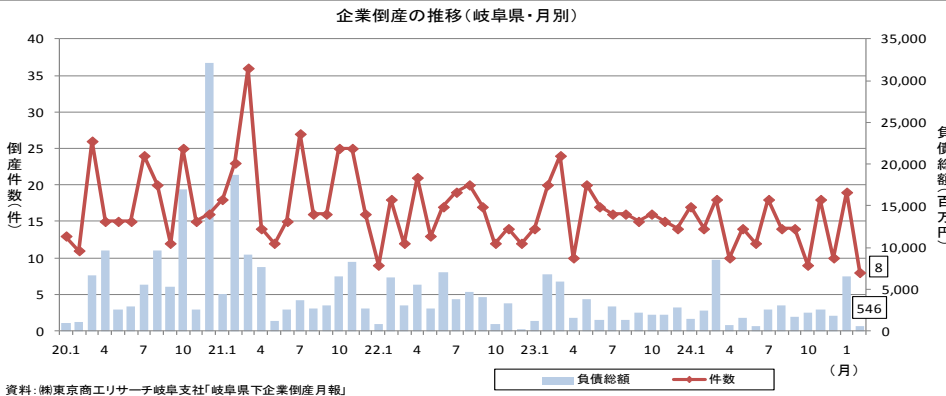
特別経済対策資金 利用企業規模別割合 (H23年4—H24年3月計)



倒産

- 平成25年2月の倒産件数は前年同月から6件減少の8件となった。
- 平成24年の倒産件数は168件となり、前年から29件減少。負債総額は平成10年以降最も低い水準。

- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



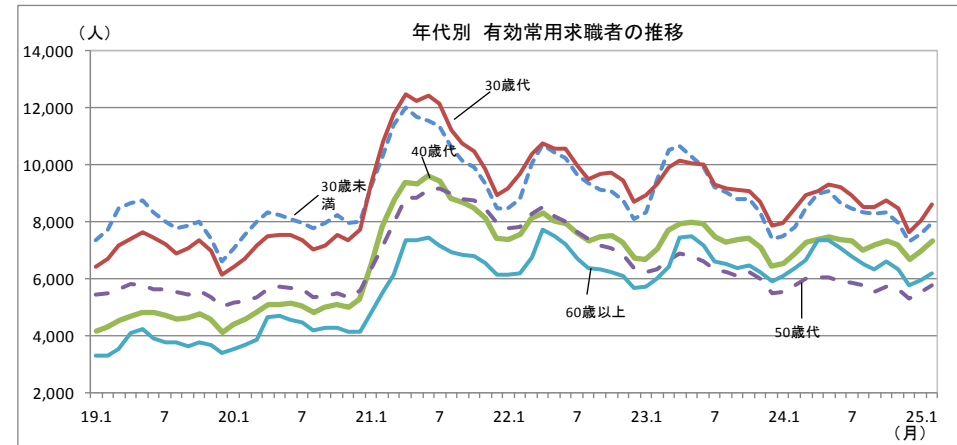
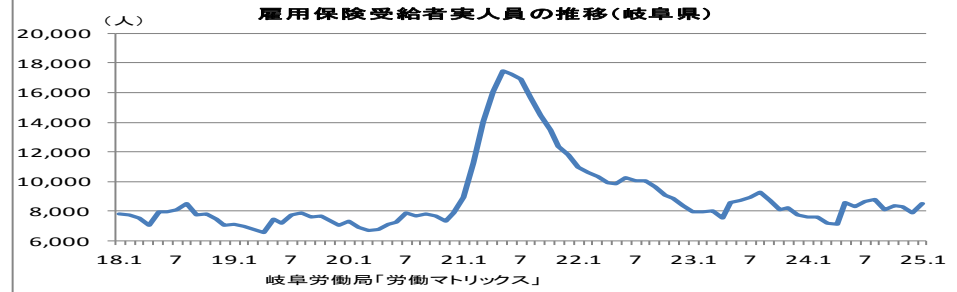
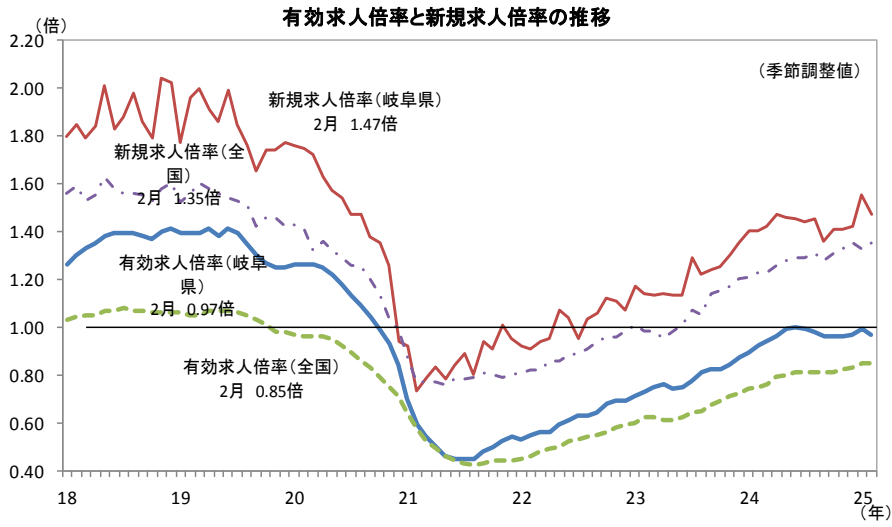
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆2月の県内倒産件数は8件と、前年同月から6件減少、前月から11件減少となっており、2月単月の倒産件数としては、過去20年間で、最低となった。
- ◆返済猶予を受けているが、業績回復に至っていない中小企業が散見され、金融円滑化法の延長期限を迎える3月に向けて、緩やかに増加を辿ることは否定できない。

雇用

○2月の有効求人倍率は0.97倍と3カ月ぶりに低下。また、新規求人倍率も1.47倍と前月から0.08ポイント低下。

○1月の雇用保険受給者人員は8,508人と前年同月と比べて12.27%増加した。



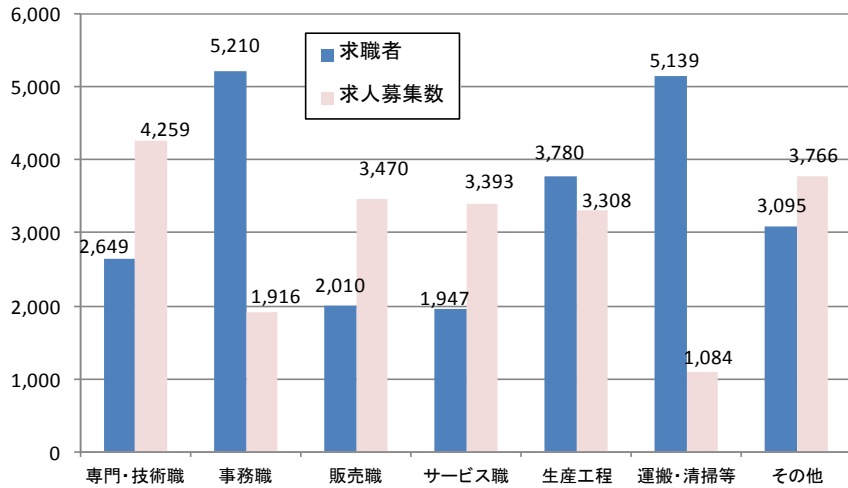
現場の動き

- ◆期間工では契約更新をせず、現在の3分の1ほどに縮減する。(輸送機械)
- ◆即戦力の営業を募集中で11月に1名採用した。営業職は引き続き募集している。(電気機械)
- ◆3月に派遣社員を5名増員した。(非鉄金属)
- ◆退職補充の中途採用を募集したが、最近は応募が減っており、思う人材も少なく採用に苦労している。
- ◆専門知識を持つ技術者の中途採用に注力しているが、求める人材がない状況である。(以上、生産用機械)
- ◆人手は過剰感が強い。
- ◆3月度も計画数減少が見込まれるため、一部期間従業員において休業補償対応での休業依頼を実施。(以上、はん用機械)
- ◆来月からの増産を見込み、派遣社員を2~3名増やす予定。(金属製品)
- ◆1月以降は出荷量が増加したことにより業務量が増えており、残業等により対応している。
- ◆4月に高卒者8名を採用予定である。(以上、プラスチック)

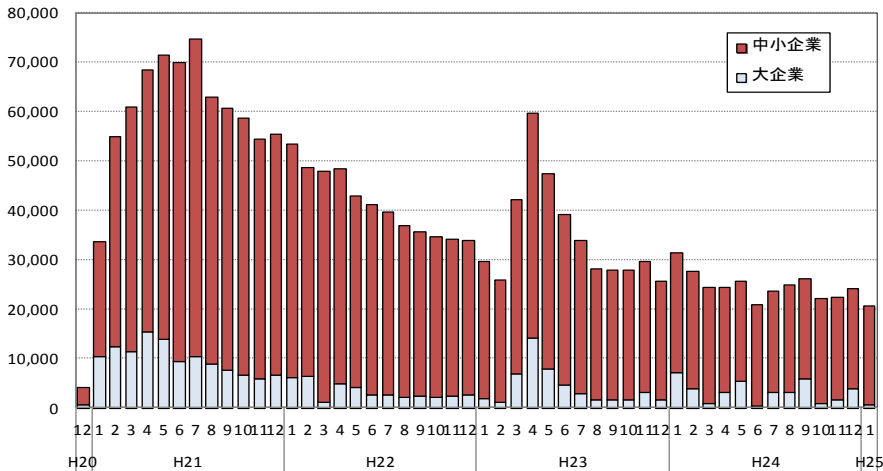
雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい。
- 新規求人は、輸送用機械や金属製品等のほとんどの産業で減少した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したものの、このところほぼ横ばい状態。

(人) 職業別求職者数・求人募集数(平成25年2月)

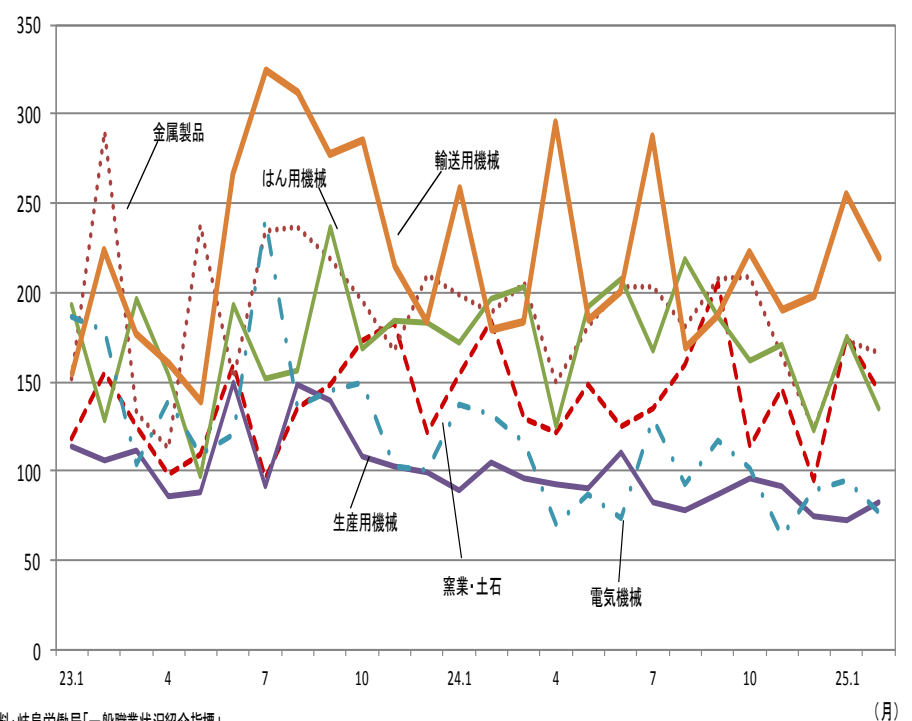


雇用調整助成金の申請状況



資料: 厚生労働省「雇用調整助成金等に関する「休業等実施計画届」受理状況」

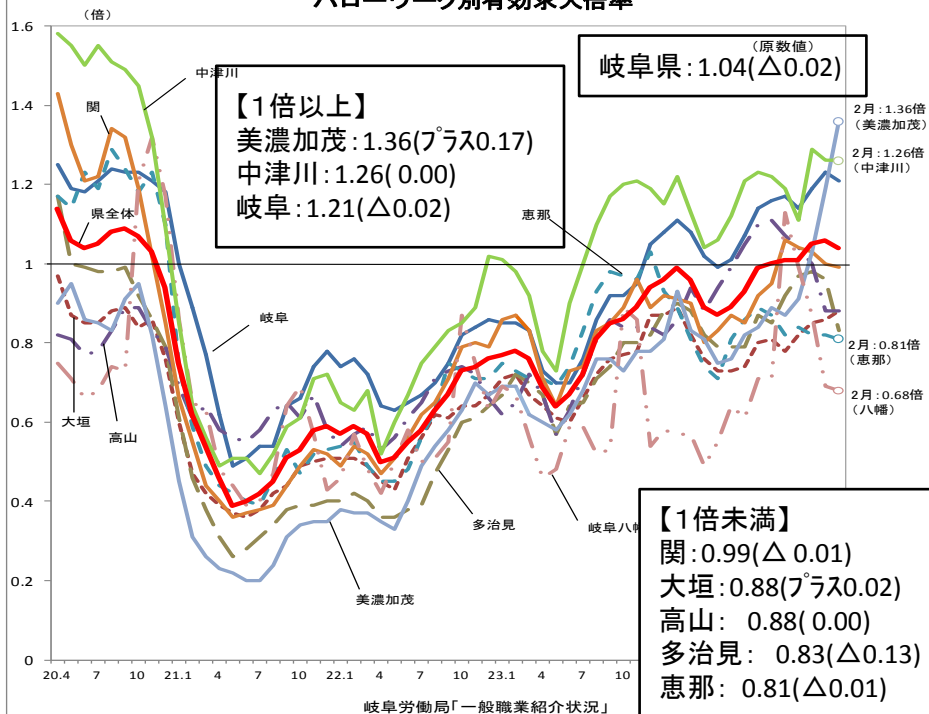
(人) 主要産業別 新規求人数(一般+パート)



資料: 岐阜労働局「一般職業状況紹介指標」

雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数ともに減少。
- ◆来所者数も減少している。
- ◆雇用調整助成金の件数、雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者数ともに減少。
- ◆雇用調整助成金の件数、雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は減少だが、求職者数は増加。
- ◆雇用調整助成金の件数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は横ばいだが、求職者数は増加。
- ◆来所者数は増加している。
- ◆雇用調整助成金の件数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆来所者数は増加している。
- ◆雇用調整助成金の件数、雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は減少。求職者数は横ばい。
- ◆雇用調整助成金の件数、雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用調整助成金の件数、雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用調整助成金の件数、雇用保険受給者数は減少。

【ソニーEMCS美濃加茂サイト関連】

○従業者数

平成24年10月末: 2,160人(外国人835人)

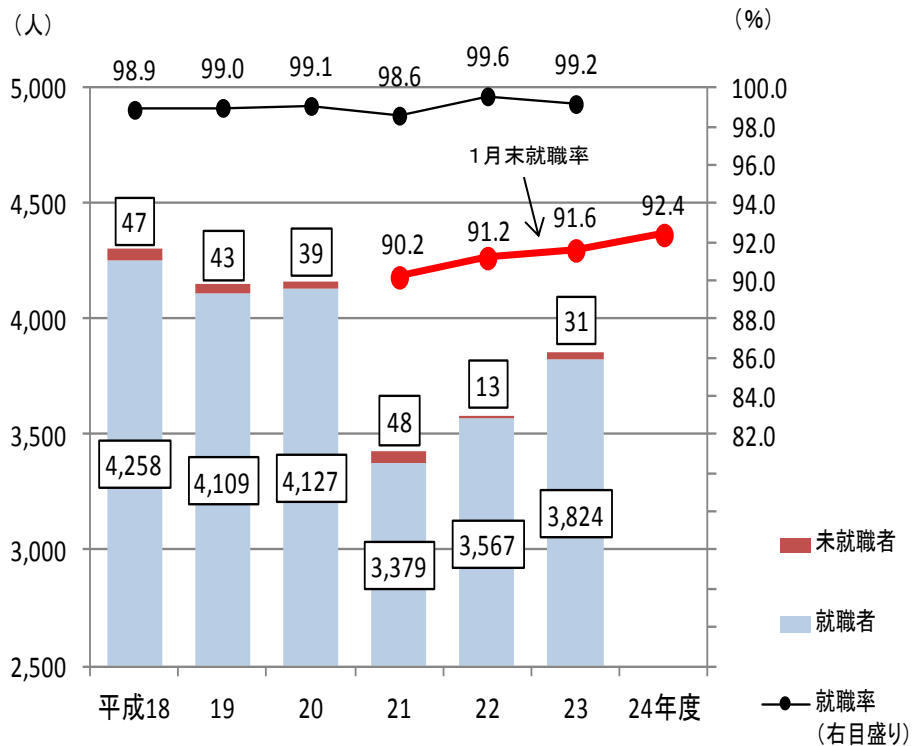
平成25年3月末: 0人

- ◆サイトの閉鎖に伴い、外国人求職者が急増している。増加している外国人求職者は、製造請負の会社で送迎があり、通訳も配置されていたため、同条件での再就職を希望する者が多い。
- ◆サイトに直接雇用されている日本人は、ソニー内での受付業務等に従事していることから、退職後に求職活動を行うものが多いと思われる。
- ◆サイトに製造請負として就業していた日本人は、自己通勤が可能な若者が多く、請負会社内での転勤や他の請負事業者への転職も多くハローワークへの求職申し込みが少ない。(ハローワーク)

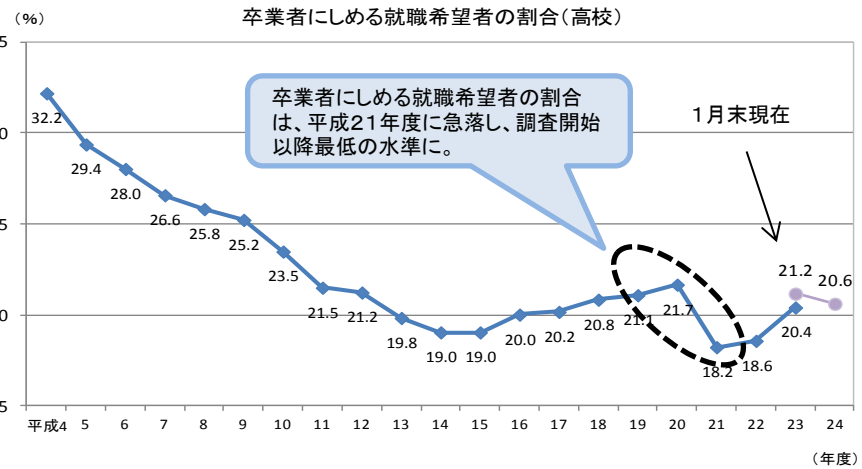
雇 用(高校新卒者の就職)

○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加している。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」



現場の動き(内定の状況)

<ハローワーク岐阜、大垣、多治見、郡上、美濃加茂、中津川>

◆2013年卒業者の内定状況は、昨年と比べて、上昇。

<ハローワーク高山、恵那、関>

◆2013年卒業者の内定状況は、昨年と同程度。

現場の動き(求人状況)

<ハローワーク高山、恵那、郡上八幡、中津川>

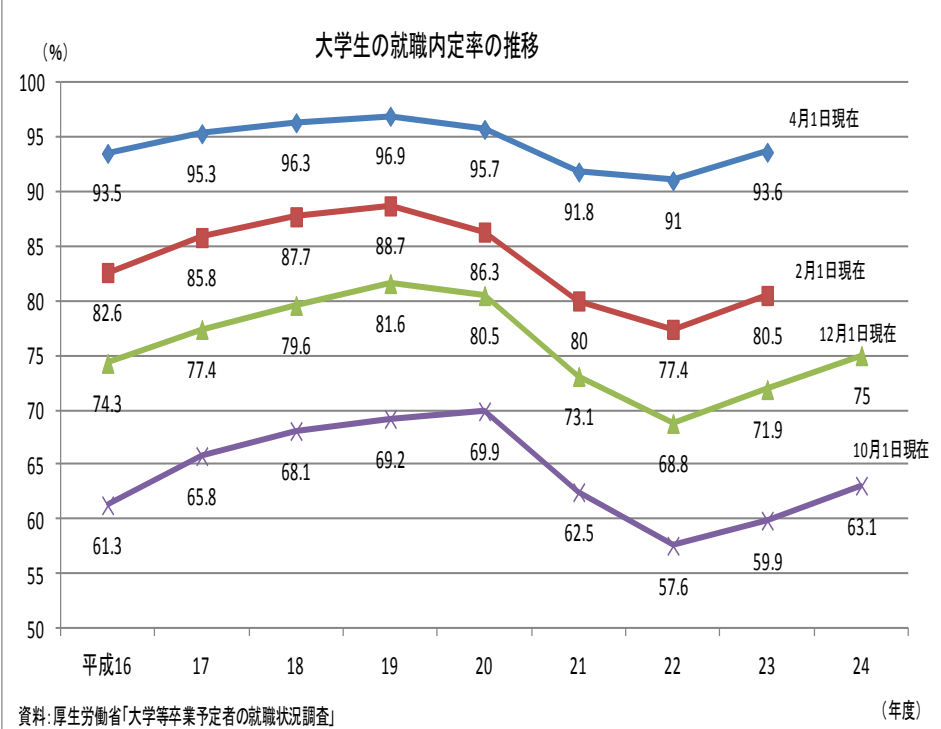
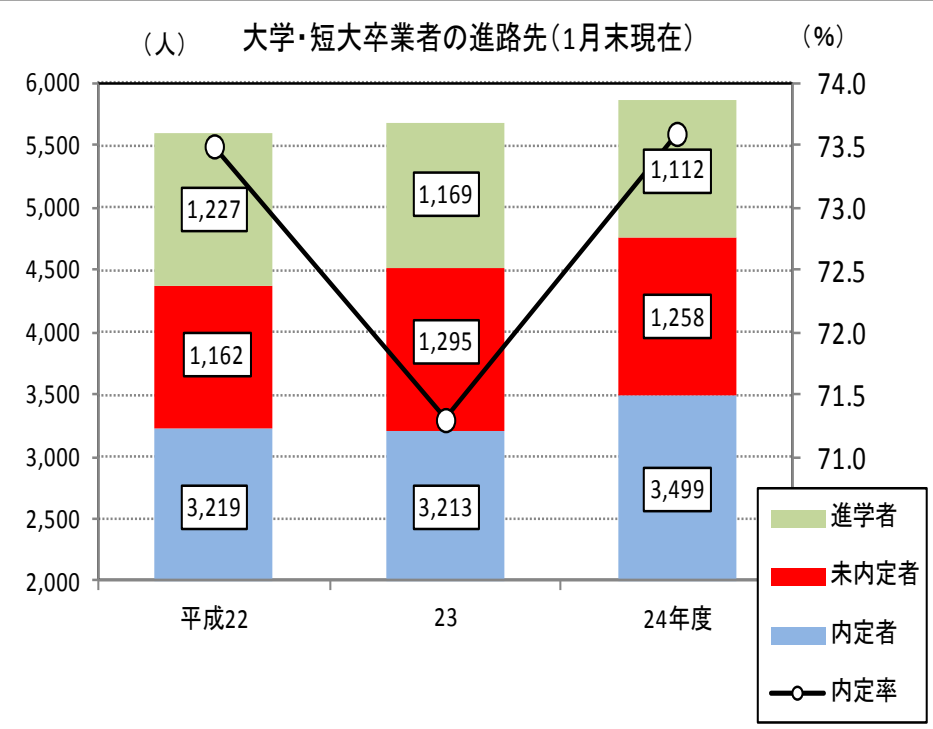
◆2013年卒業者に対する求人は、昨年と比べて増加している。

<ハローワーク岐阜、多治見、美濃加茂>

◆2013年卒業者に対する求人は、昨年と比べて減少している。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

- 大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。
- 25年3月の卒業予定者については、昨年度より改善傾向にある。



【岐阜県内の主な大学】

- ・2月末の内定率は87%と昨年度並みで推移している。
- ・内定率は98%と昨年度を上回る状況であり、未内定学生の動向を確認する予定。
- ・内定率は84%と昨年度を上回る状況であり、就職活動対象の学生もわずかながら残っているため、継続して支援。

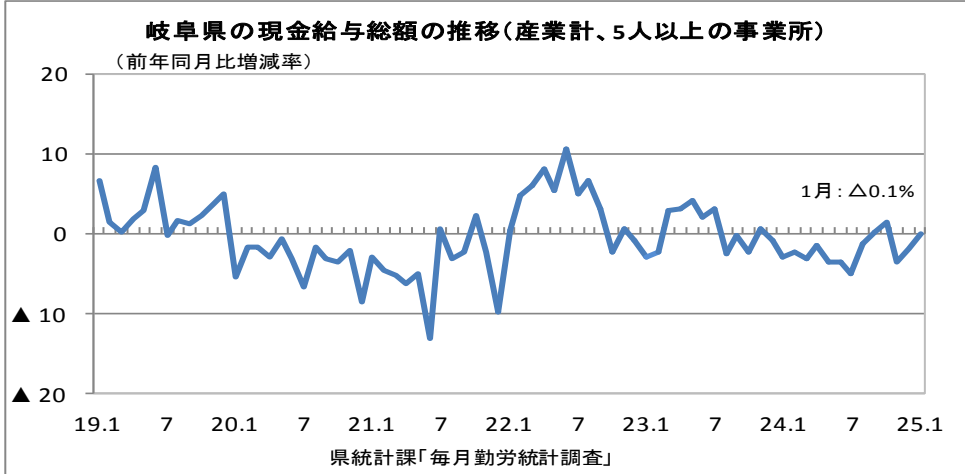
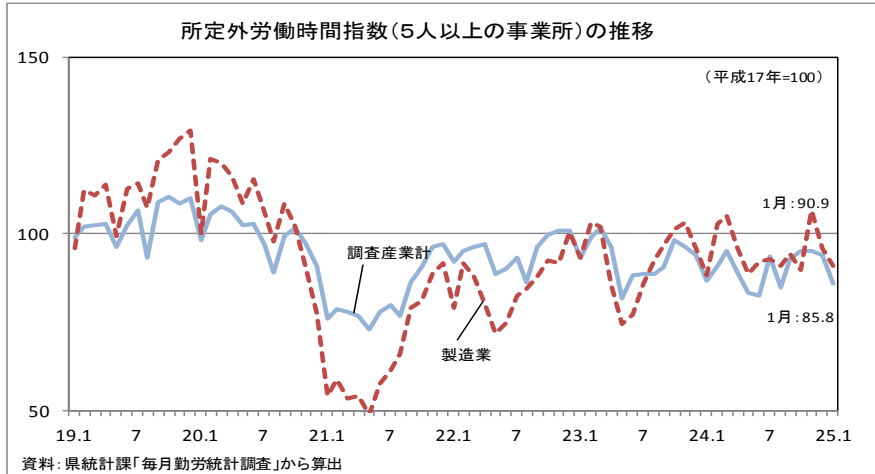
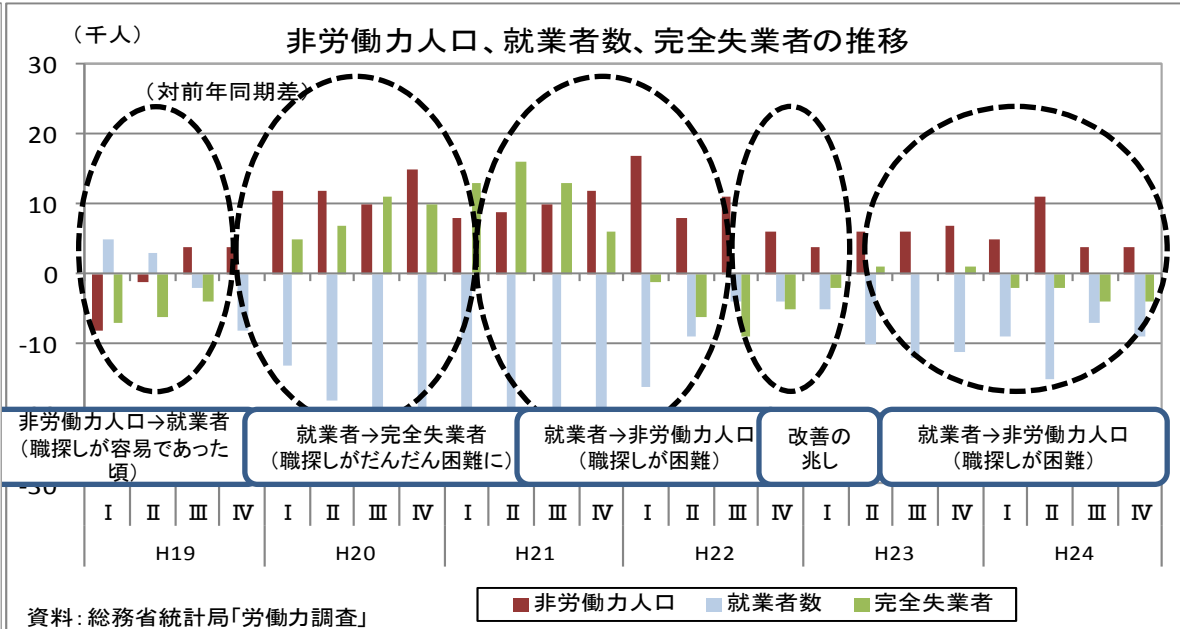
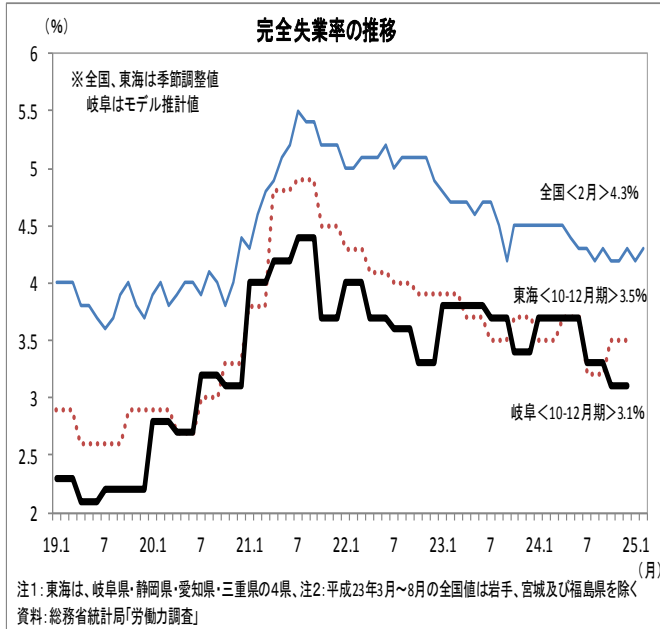
【愛知県内の主な大学】

- ・2月末の内定率は90%と昨年度を数%上回っている。
- ・内定率は82%で、昨年と比べると5%程度上昇している。
- ・内定率は88.2%と昨年に比べて3%程度上昇している。

雇 用(完全失業率)

○平成24年第Ⅳ四半期の完全失業率は3.1%と0.2ポイントの低下。

○平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成22年第Ⅲ四半期以降は改善の兆しも見られた。しかし、直近は再び減少局面に。



< 経済・雇用の現状（総括） >

- 製造業全体では、円安により収益面で改善傾向にあるものの、原材料価格の上昇が始まるとともに、燃料費が高騰している。先行きについては、比較的明るい声が多い。
はん用機械や生産用機械においては、海外からの受注があるなど引き合いが活発化し始めている。
- 直近の円安の動きについては、輸出が増加する一方で、原材料価格の上昇により製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が難しく利益を圧迫し始めている。
- 地場産業は、紙及び木工は好調であったが、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売については、食料品の売上げが順調に推移しており、衣料品についても春物の売上げが好調。商店街についても春休みに入った時期から客足が増えている。
- 観光は、施設によってバラツキはあるものの、天候不順の影響等から前年の水準を僅かに下回っている模様。インバウンドはアジアを中心に緩やかな回復が続いている。
- 雇用面では、雇用を調整する企業がある一方で、業務量の増加により雇用を増やす企業もある状況。雇用にあたっては技術職や即戦力の人材を求めているが採用に苦慮している企業が多い。
- 企業の資金繰りは、改善傾向が一服し、ほぼ横ばい状態にあるが、新規借入れ需要は依然少ない。